

土砂災害大国「日本」で暮らして

東松島市立矢本西小学校

六年 木村 蓮音

日本は世界でも有数の土砂災害大国です。土砂災害には、土石流、地すべり、崖崩れ、火山災害等があります。これらを合おせると年間約千件もの災害が起きているそうです。また、山地が多く平地が狭い日本では、山の斜面や谷の出口など、災害の起こりやすい場所に沢山の人々が住んでいることが多く、大きな被害の要因となっています。つい先日には、

台風六号と七号の影響を受け、九州や中国、近畿地方で様々な被害が出ました。私の暮らす東松島市では大きな影響がありませんでしたが、県北の栗原市では「土砂災害警戒情報」が出ていました。私は、近年被害が大きくなっている土砂災害や身近な地域の様子についても知りたいと思い、調べてみました。私の暮らす東松島市には「滝山」と呼ばれる山があります。市で作成しているハザードマップを調べると、やはり「滝山」のふもと

の地域は土砂災害警戒区域が多く、現地を訪ねると落石を防ぐためのフェンスや斜面へのコンクリートの覆い（去面）等の防災設備がありました。普段は深い草の茂みの中に埋もれ、あまり意識したこともありませんでしたが、実際に近くで見たり触れてみると、遠くから見ていたよりもずっと大きく、頑丈な作りであることに気がきます。設備のすぐそばには民家や寺社等がありました。実際に山際に住んでいる人にとって、このような設備があることは、強く、安心につながるものだと感じました。

土砂災害が予想される地域では、被害を少しでも減らすために様々な対策に取り組んでいます。県内の防災設備について調べると、先日「土砂災害警戒情報」が発令されていた栗原市では、流れてくる土砂の流れを抑えるための「砂防堰堤」が、二年前に台風で大きな被害を受けた丸森町では、被災後に大量の土砂を一度受け止める場所として「遊砂地」

5
が設置されています。私たちの暮らしを守る
防災設備は、時代の流れとともに新設された
り、進化していきなりすることが分りました。
それでも、近年は大規模ながけ崩れや川の
氾濫等、台風や警報級の大雨等の際に大きな
災害が発生することが多くなりました。これ
はどんなに優れた設備があっても、自然の力
は時にそれを上回ることもあることを示して
います。それを理解した上で、私たちにでき
ることを考えることが大切だと気付きました。

6
私はまだ大きな災害を経験したことがあり
ません。でも他の地域で起こる様々な災害を
目にすることで危機感をもち、自分の暮らし
地域の様子や身の回りの設備について調べる
ことで防災意識が高まりました。命を守るた
めに大切なことは「油断をしないこと」だと
思います。普段から防災への関心を高くもち、
新しい知識を身に付けていくことで、有事の
際には落ち着いて自分や家族の命を守る正し
い判断ができる人に近づいていきたいです。